

# 組合員の活動

コープでは、組合員の皆さんが「食育」「子育て」「くらし」「平和」「環境」「文化」「福祉」などのテーマで、各生協ごとに、あるいは生協の枠を超えて、多彩な活動を行っています。

## 平和への取り組み

### 20万筆の署名の行方 ～一人ひとりの声が「核兵器のない世界」の推進力に～

コープは、「平和な社会の実現」をめざし、私たちにできる活動を進めてきました。2007年から取り組みを始め、コープかながわ、コープしずおか、市民生協やまなしから延べ20万筆が寄せられた「核兵器廃絶を求める署名」の活動もそのうちのひとつです。

2010年4月、組合員代表4名は、寄せられた20万筆の「核兵器廃絶を求める署名」を持って、署名呼びかけ人である平和市長会議会長・秋葉広島市長（当時）を訪問しました。そして、署名に込められた平和への「ねがい」を秋葉市長に託しました。

この私たちの20万筆の「ねがい」は、2010年5月4日、世界各国から寄せられた102万筆の「ねがい」とともに、NPT再検討会議開催中のニューヨーク国連本部で、秋葉広島市長からNPT再検討会議議長と国連軍縮担当上級代表へと手渡され、核兵器廃絶を願う世界中の市民の声に耳を傾けるよう要請が行われました。

このNPT再検討会議の開催にあわせ、組合員代表7名がニューヨークを訪れ、被爆者の方々とともに学校や教会を訪問し、被爆証言活動の支援や国連ロビーでの原爆展の支援、各国政府代表への要請行動、ニューヨーク市内での平和行進などに取り組みました。

ニューヨークから帰国後、組合員代表は、現地での活動を地域の皆さんに伝え・広げる活動をすすめました。



店舗での署名活動



広島市長（前列右）を訪ね、署名に込められた「ねがい」を託す



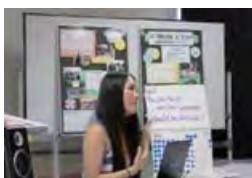
「ねがい」をNPT再検討会議議長へ提出  
(写真提供: 平和市長会議事務局)



ニューヨークで平和行進に参加



原爆展の支援活動



国内での「伝え・広げる」報告会



国連ロビーでの原爆展



### なぜ、コープは平和を求める活動に取り組むのでしょうか。

コープは、戦前から各地で事業活動をしていました。しかし、第2次世界大戦時の経済統制のもとで事業自体が成り立たなくなったことや、爆撃による施設の被害が拡大したことなどにより壊滅的な状況に追い込まれてしまいました。

そのため、戦争への反省と平和への強い願いは、戦後の再出発にあたりコープのくらしを守る活動の基盤となりました。

この願いは、経営理念に「平和な社会の実現」としてうたわれ、今日まで引き継がれています。

## くらしを考える活動

### 「くらし」について学ぶ取り組み

コープかながわ

くらしを学習する場として「くらしの見直し学習会」を5回、神奈川県との連携企画「かながわコミュニティカレッジ」を6回開催するなど、広く参加を呼びかける場づくりを進めました。さらに、機関誌「MIO」や「MIOぶらす」などを通して、消費者啓発や、くらしの力を高める学習などにも取り組みました。また、消費者被害啓発パンフレットを作成し、消費者啓発を進めた活動が、消費者庁からも「好事例」として取り上げられました。



くらしの見直し学習会

### 「家計簿活動」

コープかながわ

年間を通して家計簿提出にご協力いただく家計簿モニターは918名の登録でした。このうち新しいWEB家計簿「家計ドットこ〜ぷ」への登録は56.6%にのぼっています。

集計データは組合員のくらしの実態をとらえ、生活者としてのさまざまな発言をしていただくための大切な資料としています。



家計簿モニター交流会

### FP（ファイナンシャルプランナー）入門講座

コープしずおか

LPA（ライフプランアドバイザー）の会が主催し、12月に静岡市で開催し大好評だったFP入門講座を2月に東部地区でも開催しました。

この講座では、現在の厳しい経済状況の中、日々の生活に不安を感じ悩んでいる方に情報提供し、くらしの見直し活動に生かしていただくことを目的としています。最終日のアンケートでは、満足度90%以上と好評でした。



FP入門講座

### 食品表示学習会

コープしずおか

2009年度に引き続き、静岡県食品表示啓発事業を受託し、県内9カ所で、「食品の表示がおもしろいようにわかる入門講座2」を開催しました。食品の表示の見方の学習後、実際にコープ店舗売場（一部ではお買物めも紙面）で実際の表示を確認しました。学習はクイズ形式で行いましたが、「わかりやすくて良かった」と好評でした。



店舗売場で商品の表示を説明  
(12月9日 コープしずおか  
千代田店)



「この表示は○?それとも×?」  
(1月12日 コープしずおか  
小豆餅店)

### 「消費生活地域講座」

市民生協やまなし

山梨県委託事業の「消費生活地域講座」を計6回開催し、身近な消費者被害についての情報提供や学習の場づくりを進めました。地域の学校へもチラシを配布し、広く参加を呼びかけました。



第1回消費生活地域講座

#### ■講座内容

第1回	こんな時どうする？ 親子で学ぶお金・生活・消費者被害
第2回	消費者力を高めて安心なくらしを!(消費者力アップ講座①)
第3回	くらしのスペシャリストをめざそう!(消費者力アップ講座②)
第4回	こんなときどうする？ 親子で学ぶ「お金・生活・消費者被害」
第5回	「身近な消費者問題を学ぼう! ～消費者被害にあわないためには? あってしまったら?～」
第6回	「消費者がつくるこれからの未来 ～消費者市民社会って、なんだろう?～」

※6回計でのべ197名の参加者がくらしの見直しや学習を行いました。

## 食育、子育ての活動

### 食育活動

コープかながわ

2010年度は、「伊勢原米作って食べちゃう会」「ヤマのがっこう」「食育体験ツアー」「たべる、たいせつ絵画コンクール」などの食育活動を実施しました。いずれも、親子で体験して学ぶ活動であり、幅広い世代の参加につながりました。



伊勢原米作って食べちゃう会

### 小学校へ食育講師を派遣

市民生協やまなし

2010年11月15日、甲斐市立竜王東小学校の「大豆からの豆腐づくり」の授業に食育講師を派遣して、食べておいしい本格的な豆腐をつくりました。子どもたちは自分たちで育てた大豆から豆乳ができることに興味を示し、食べることとつくることの楽しさや大切さを伝えることができました。

2010年度の食育講師の派遣は7件と前年の倍になり、県内の学校との関係強化がいちだんと進みました。



甲斐市立  
竜王東小での  
豆腐づくり

### ちづか店一日店長

市民生協やまなし

甲府市立北西中学校からの要望を受けて、生徒さんの社会体験学習として、2010年8月5・6日の2日間、ちづか店で「一日店長」企画を実施しました。参加した生徒は3名で、お店の仕組みや、接客で大切なことなどの学習と、店内放送・レジ打ちなどの仕事を実際に体験しました。

参加した生徒からは、「お店では、来店されたお客さまに気持ちよくお買い物をしていただくことを一番大切にしてい

る、ということがよく分かりました」などの感想がありました。ちづか店ではその他、地域の学校からの要請に応え、見学や現場実習の受け入れを行っています。



ちづか店一日店長

### 産地の生産者との交流

コープかながわ コープしずおか 市民生協やまなし

「コープで体験・学ぶ会」や工場見学を行い、知る・学ぶ・交流する活動を進めました。2010年度は3生協であわせて2,218名の組合員が延べ74の産地・工場を訪問し、生産者との交流や農作業体験・生産現場の見学などを通じて、相互の信頼関係を深めることができました。

また組合員に「産地の後継者育成募金」の呼びかけを行い、



富良野の子どもたちをコープの店舗へ体験実習に招きました。

「コープのぶどう、おいしさの秘密発見ツアー」で中村果実グループを訪問

### 「コープの生産者とともに報告・交流会」を開催

コープかながわ コープしずおか 市民生協やまなし

「～食と食料アクションプログラム～コープの生産者とともに報告・交流会」を2010年12月上旬に4会場で開催し、155名の組合員が参加しました。

生産者の皆さんからはコープとともに進めている取り組みについて、組合員の皆さんからは産地確認会に参加した感想などを報告しました。

組合員と生産者の皆さんが同じテーブルで、生産者のご苦労や安全・安心の取り組み、産地の思いを直接伺うことで、親近感もわき、理解を一層深めることができました。



コープの生産者とともに  
報告・交流会

## 「ひとめぼれチャレンジ」と、 稲作り作文コンクール

コープかながわ コープしずおか 市民生協やまなし

2010年度、コープでは「おコメを作ってみよう!『ひとめぼれチャレンジ』」と題し、コープの指定産地米である「岩手ひとめぼれ」をペットボトルやバケツを使って自宅で作てようという取り組みを行いました。

コープかながわ、コープしずおか、市民生協やまなしなど5生協から合計700世帯以上の家庭が参加して「岩手ひとめぼれ」の栽培にチャレンジしました。また、これとあわせて実施した「稲作りの作文コンクール」では、稲作りの苦労や楽しさを綴った343点の作品が寄せられました。

## 遺伝子組換え農産物に関する 意見交換会

コープしずおか 市民生協やまなし

2010年11月24日市民生協やまなし本部で、12月13日にはコープしずおか本部でそれぞれ遺伝子組換え農産物に関する小規模コミュニケーションを開催しました。

市民生協やまなしでは役職員を対象に開催し、農林水産省から「遺伝子組換え農産物の現状について」情報提供していただきました。その後、コーディネーターの消費生活コンサルタントの進行で参加者からの質問を受け意見交換を行い、遺伝子組換え技術を応用した研究開発に関する相互理解を深めました。

コープしずおかでは「もっと知りたい遺伝子組換え農産物のこと」として、DNA(遺伝子)の抽出実験の後、農林水産省の職員より、遺伝子組換え農産物についての情報提供が行われ、参加者で意見交換を行いました。「『遺伝子組換えでない』の基準について、なぜ5%以内なのか」「遺伝子組換えの表示について日本も外国も同じ基準・見解なのか」「タンパク質の分解のしくみやアレルギーの要因となる受容体について詳しく知りたい」など活発な話し合いがされました。



「もっと知りたい遺伝子組換え農産物のこと」

## 子育て応援

コープかながわ

店舗のコミュニティールームなどで開催する「子育てひろば」を12カ所で開催しています。子育てに日々頑張っている皆さんの憩いのスペースです。お子さんたちの遊びを見守りながら、肩の力を抜いてゆったりした時間を過ごします。



子育てひろば

組合員活動のひろがり

コープかながわ

2010年度、コープかながわでは「自主・自発」の新しい組合員活動が芽吹き、広がり始めました。子育て企画、キッズ店長、60歳以上ネイルアート、ふれあい食事会、地引網など、さまざまな企画が展開されました。

エリアコーディネーターの活動が、「参加の場づくり」、「定期的な情報提供」、「地域での新たなネットワークづくり」へとつながり、組合員活動への参加者数が拡大するという効果が生まれています。特に保育の回数が昨年の1.5倍に増えるなど、次世代を担う層の参加環境も着実に整いつつあります。



キッズ店長

## 福祉・助け合い活動

### 地域を知る活動

コープかながわ

2010年度、組合員による「私たちの地域を知る」活動として多彩な取り組みを推進しました。「防災・減災」学習会や「ふくしdeまちづくり」、地元の「歴史散策ツアー」などを開催し、町の美化、福祉、子育て、平和などの活動を通して地域への考えを深めました。また、「認知症サポーター養成講座」を開催するエリアも増え、地域福祉のネットワークの広がりにつながりました。



「ふくしdeまちづくり」ワークショップ

### キッズのための認知症がよくわかる講座

コープしずおか

2010年度、静岡県内の3会場で、親子が認知症について学ぶ講座を開催し、11家族・19名にご参加いただきました。講座では、子どもたちに認知症について少しでも理解を深めていただけるよう、キャラバン・メイト\*の方のご協力による認知症のお話と紙芝居を行いました。寸劇では、「食べたのに『食べていない』と言う」「『家に帰りたい』と言う」「好きだったことをしなくなる」など10の事例を紹介し、それぞれについて詳しく解説していただきました。参加者からは、親子で一緒に学ぶことで会話が増えてとてもよい、などの感想をいただきました。



キッズのための認知症がよくわかる講座

※キャラバン・メイト

地域でくらす認知症の人や、その家族を応援する「認知症サポーター」を育てるため、自治体などが実施している「認知症サポーター養成講座」で、講師役を務める人をいいます。

た。また、家庭などからのご好意で寄せられたカレンダーで募金をするカレンダー募金が、県内各地で取り組まれました。

また、市民生協やまなしでは、海外旅行や出張で持ち帰り、使う予定がなく家庭で眠っている外国コインを組合員や県民に呼びかけて提供していただき、約9kgをユニセフ募金として寄付しました。

### 目の不自由な方の収穫体験

目の不自由な方がお買い物できるように、おうちCO-OP宅配事業の商品カタログ「お買物めも」をテープやCDに録音し、週に1回お届けするリーディングサービスを行っています。リーディングサービスは、1998年1月コープかながわの組合員有志がカタログの内容をカセットテープにしたことから始まりました。コープかながわ160名、コープしずおか120名、市民生協やまなし10名の方がリーディングサービスを利用されています。コープかながわでは、リーディングサービスを利用されている組合員を対象に、商品に直に触る機会をつくったり、試食会、商品産地の見学会などを行ったりしています。2010年10月に



落花生とさつまいもの収穫体験

は「落花生とさつまいもの収穫体験」を行いました。「落花生は土の中で実ができるの!」「土の感触がきもちいいわ!」などの歓声が上がりました。

組合員活動のひろがり

#### コープしずおか

組合員の自主・自発の参加を広げるために、2010年度より県内を9つのエリア分け、各エリアに3~4名のエリアサポーターを配置しました。そして、コープに関心のある方ならお一人でもご参加いただける「コープひろば」を開催し、さまざまなテーマで多様な世代の方々が楽しく交流しました。エリアごとに「食」や「くらし」をテーマに、料理講習や学習会などさまざまな企画を展開し、参加が広がっています。2011年度は、さらに開催会場を増やして開催します。

さらに、組合員の自主的活動「コープふれんず」の支援として、店舗の集会室の利用や財政の支援などに加え、託児を支援する制度も新設しました。まだまだ制度の認知度を高める課題などがありますが、各地域で多彩な活動が広がっています。

### カレンダー、コインでユニセフ募金

コープかながわ 市民生協やまなし

コープかながわでは、「カレンダー募金」や「ユニセフ学習会」など組合員の皆さんと、支援活動をより一層広げています。毎年12月開催のユニセフハンド・イン・ハンド募金は、「届けたい。すべての子どもたちに「いのちを守る方法」を」を2010年の募金テーマに、横浜駅西口前にて募金活動を行いました。



カレンダー募金

## 環境活動

### 環境の取り組み

#### コープかながわ

2010年度、横浜市の呼びかけに応じて、家庭のCO<sub>2</sub>削減に向けた「環境家計簿」への参加を呼びかけました。この取り組みには1,200世帯の登録があり、そのうち512世帯から「環境家計簿」を提出していただきました。

また、自然観察会、田んぼの生きもの調査や環境学習会、行政と共同した環境展などが各エリアで開催され、環境保全を目的とした組合員活動がさらに広がりました。



田んぼの生き物調査

#### 市民生協やまなし

2004年度から「櫛形(くしがた)山で森づくり」を行っています。

森を育てるための植林や下草刈り、また山菜とりやトレッキングなど自然とふれあう活動に組合員が楽しみながら参加しています。2010年度は、下草刈りを含む4回を実施し、組合員が自然に親しみ、自然環境の大切さを考える機会となりました。子どもたちのために、限りある資源を大切に、自然と調和する取り組みを進めました。



マツ科の樹木「ハリモミ」を植樹

### 環境活動の助成

#### コープしずおか

前年度に続き2010年度も、静岡県内で環境保全に関する活動・事業を継続して行っている民間団体に対し、お買い物物袋(レジ袋)収益金の一部を原資とする助成金支援を行いました。2010年度は下表の3団体に助成を行い、大切な自然環境を守り、緑に満ちた豊かな生活を送る社会づくりのお手伝いをさせていただきました。

#### ■2010年環境助成金の主な使途内容

	名称	助成金額 (単位:円)	活動内容	助成金の 主な使途内容
1	NPO法人 ラブ・ネイチャーズ	50,000	自然体験 活動	「子供わくわく自然体験」 の一部運営費
2	チーム:絆の森 いっぽんまつ	50,000	保安林の 保全整備	草刈器具、防護用具 購入等
3	ゆめづくり市民の会	50,000	河川浄化	運搬機レンタル費用、清掃器具 購入、EM発酵材料購入費
残金	静岡県緑化 推進協会	50,000	森づくり、学校林 整備の支援・推進	「緑の募金」
	合 計	200,000		

#### 組合員活動のひろがり

#### 市民生協やまなし

組合員による自主・自発の活動の広がりをめざし、「組合員活動の会」の活動は42会250名が登録し、県内各地でさまざまな活動が広がりました。多くの人が出会い、楽しみながら学びあい、教えあうネットワークが広がる活動を行っています。

※組合員活動の会とは、市民生協やまなしの組合員3名(世帯)以上が集まって自主的・自発的に「やりたいことを」「やりたいときに」「やりたいところで」実現できる集まりです。

